



# ポケットジャーナル



## ★半どんの会

文化賞受賞者決定

芸術文化団体「半どんの会」の昭和四十九年度文化賞が決定した。今年度から芸術文化が地域社会の人々の心と生活に豊かな人間関係の潤いをもたらすという福祉的役割を提唱してきた同会の年来の考えより、身体的障害に耐えながら傑出した芸術作品の創作に励んでいる芸術家に贈る「芸術奨励賞」が設定された。受賞者は次のとおり。敬称略

## 現代芸術賞

文芸部門／池上義一(小説)  
磯江朝子(短歌)

美術部門／江田誠郎(洋画)  
土肥武雄(日本画) 難波祥洞書・仮名 松本恭一(写真)

## 文化功労賞

岡本松堂(書・漢字)

## 県民感謝賞

西村夢花(俳句)

## 芸術奨励賞

直井潔(小説) 田部信(詩)

## 県知事感謝状

## 姫路美術協会

★神戸を訪れる人たちに

人気——異人館マップ

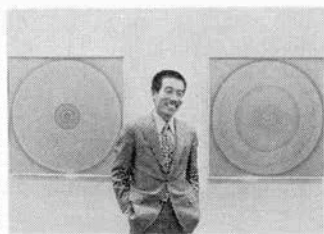
北野町界わいの異人館を残そうという運動が盛んになっているが、このほど神戸市余暇情報センターが点在する北野町異人館をイラスト地図でまとめた「北野町異人館マップ」を作製した。同センター所長の林利三郎さんによるイラストやいくつかの異人館の簡単な説明がわかりやすく、北野町異人館をめぐるのにとでも役立ち、神戸っ子だけでなく地方からの観光客に大いに人気がある。初春の陽光をあびて、今なおエキゾチックな香りを残す北野町界わいの細い裏道を散策できる神戸っ子は、なんともぜいたくなもの。

## ★黒と青と赤のシリーズ

十一月二十七日から十二月三日まで、白山画廊(神戸市葺合区吾妻通3ノ1ナ

カモトビル8F)で、現代美術の小野田實さん(姫路市北平野町七〇三ノ四)が、神戸で九年ぶりの個展を開いた。

BLACKとREDとBLUEのWORKシリーズは、円線と面の色のハーモニーをみせるモダンなタッチで以前の宗教的な匂いの密度の深い円シリーズから、リラクセスした人間的な余裕



個展会場での小野田さん

がうかがえ、楽しめる作品になっている。具体美術協会の解散以来作品にふれることが少なかっただけに、充実した個展はさわやかに。他に姫路で詩画誌「GATAZ」の編集、デザインを担当や、「全骨類」のメルアートなどの活動にも参加している。

## ★インテリアに手造りの花

アートフラワーの製作と指導に意欲的に活躍、NHKテレビの「婦人百科」にも出演した長濱律子さん(フワリングながはま) 薔8

誕生日  
ありがとう  
運動



あけまして

おめでとうございます  
本年もよろしくおねがいいたします。

「福祉」「福祉」と叫ばれるようになってから、もう数年たちます。わたしたちの実生活で福祉の充実を実感するところまではいたりません。これには、いろいろと原因が考えられます。そのひとつは、「福祉」がひとりひとりのものとなっていないことが、最大のものかと思えます。

そこで、今年こそ、みなさんが福祉の問題を自分ごととして、主体的にかかわりを持たれる手軽な方法として、今年のあなたの誕生日から、本運動に参加くださるようおねがいします。

## ★誕生日ありがとう運動とは

精神保健問題の啓発運動です。みなさんの誕生日のお祝の中からは意識的に百円節約して貯金していただく。各家庭でこの問題について話し合う機会をつくってください。

このことを手かりとして、わたしたちすべてが、精神薄弱児(者)をあたたく包む雰囲気を広げると同時に、ひとりひとりのかけがえのない生命について思いをめぐらせ、年に一度の誕生日を有意義にしようという運動です。

## 誕生日ありがとう運動本部

神戸市葺合区御幸通八の九の一  
神戸国衆会館一階郵便局の前  
電話二五一一八六一内線三一六



人伊田コノエさんによせる詩で、子宮ガンに蝕ばれた夫人の闘病生活と死、そしてやめ暮しの中から、苦しみと孤独を越えて、夫婦愛の浄化した強く深い姿がみられる美しい詩だ。

（発行所 天祥 神戸市灘区畑原2丁目2ノ12 ☎078-8101087 振替神戸四四五四一 領振千円）

★ねこが十二支にないのは残念だにゃー

日本猫愛好会（本部・金沢市荒屋町）のねこ文庫第21集「猫を訪ねて」が出版された。同愛好会は、全国の猫好き四百名の会員から成り、毎月の機関誌「ねこ」（菊版・一二ページ）は一三〇号をこえる。このたび出版された「猫を訪ねて」



「猫を訪ねて」

## 花時計



### 地域社会の時代

いよいよ昭和50年の年のはじめだ。いったいどんなことになるのだろうか。いっさいの予測はつかない。

だが、何となく、めでたさよりも緊張感から逃れられない不思議な感慨

は神戸在住の日本猫愛好会員・福田忠次さんの著によるもので「須磨寺の猫」のほか十七篇に全国の猫に關した話がとりあげられている。ただただ猫が好きなのだという人たちの集りである同愛好会、一種独特の味が同書からもうかがえる。「猫を訪ねて」福田忠治著 日本猫愛好会発行、ねこ文庫21 78頁 非売品、連絡先 〒657 灘区大和町2の1の25 福田忠次 TEL 八

にとらわれる。これは日本人のほんとうに悪い癖かも知れない。この年代はコミュニケーション時代の幕開の年代だといいたい。

豊かな人間環境のなかに育まれる魅力ある地域社会づくりの年代でありコミュニケーションの花開く時代であると思われる。

充実した地域社会、地域文化は国際的な広がりをもつことによってさらに素晴らしい輝き加わるであろう。

四一―二九六七  
★俳句とは何かの手引き  
青玄から刊行

俳句誌「青玄」の創刊二十五周年を記念して青玄俳句会から「俳句に関する百十一章」が刊行された。同書は、伊丹公子、たむらちせい、高橋由紀夫ら二十七名の執筆から成り、俳句を有季・定型・文語の一行詩とする在来派に対して、超季・定型・現代語の一行詩に、今日の必然を見い出すのが、俳句現代派であるとしての新しい軌道に則っての解説書となっている。

「俳句に関する百十一章」青玄叢書65 著者代表・伊丹三樹彦 新書版 八百円

もう、中央偏重の時期は過ぎようとしている。そして情報化社会はますますその密度を加えることになる。

情報は地域社会のなかでこそ育つものであるというこ、地域文化のなかでこそ創造されるのだということをもう一度確認する年にしたいものである。

〈Y〉

## KOBE POST

★音楽評論家小石忠男さん（音楽クリティッククラブ）が、「世界の名指揮者」と題した本を音楽之友社から十二月中旬に出版され、その出版記念パーティが、十二月十九日大阪フェスティバルホール地下「レストラン・シャトゥ」で開かれ、音楽仲間が出版を祝って集いました。

★本誌連載小説、まだ遅くない、を執筆中の葉月一郎さん（朝日新聞大阪本社編集委員重松守さん）に美女誕生、小説の女主人公愛紀と同名ということです。おめでとろ。

★漫才で活躍中の西条笑児さんが和子さんと結婚されて十月、十二月末から五色塚古墳があり淡路島も見えるスイートホームへ転宅しましたとのお知らせがありました新居は〒657神戸市東水区五色山町三丁目一九〇六舞子五色塚ハイテツ四一〇号 ☎078（七〇六）一〇〇七

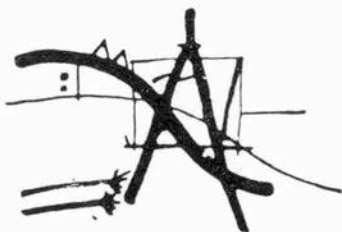
★朝日放送の西村真一郎さんが、このほど野田弥生さんと結婚されました。新居は、芦屋市大原町20ノ22ノ44 ☎（〒659）です。

★飛行船ファン集れ、とツエッペリンクラブ事務局（東港港区芝元15庫内15F ☎03（五〇一）〇八五二）から入会のお誘いがありました。岡本太郎会長、木村秀政日大教授、田中新造、真鍋博さんなどが集って日夜「飛行船時代」の到来を期して、研究、利用面の探求を行っているとか。あなたも参加しませんか？

★クラブ阿似子の小島阿似子さんが、十二月七日をもっとお店を開店されました。可愛い人気もののママの姿が見られなくなるのは淋しいことですね。くちろつさま。

額縁絵画・洋画材料

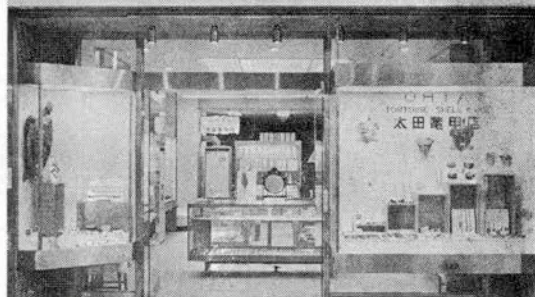
室内工芸品



末 積 製 額

三宮・大丸北  
トア・ロード  
331 1309・6243

太田鼈甲店



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195

A HAPPY NEW YEAR



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

賀 正

旧年中は格別の御引立を蒙り

厚く御礼申し上げます

本年も相変わらず倍旧の御愛顧の程

御願ひ申し上げます

昭和50年元旦

北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

- 本社・工場・煎内店 神戸市東灘区東灘1-8-23(市立美術館東隣) ☎221-1164
- 三宮センター街本店 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) ☎331-2421
- さ ん ち か 店 神戸三宮地下街スイーツタウン ☎391-3558
- 神戸阪急・大丸・そごう・三越店 神戸デパート店・壺水店

高級紳士服専門店  
神戸テラー



さんちかメンズタウン TEL (391) 0388  
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL (331) 2817・3173

おすし  
てんぷら



栄  
彌



本店 大丸前・三宮神社東  
TEL (331) 5772  
56734  
(毎週水曜日休み)  
支店 さんちか味のれん街  
TEL (391) 5233  
(第3水曜日休み)

営業時間  
A.M. 11.30 ~ P.M. 9.00

A HAPPY NEW YEAR

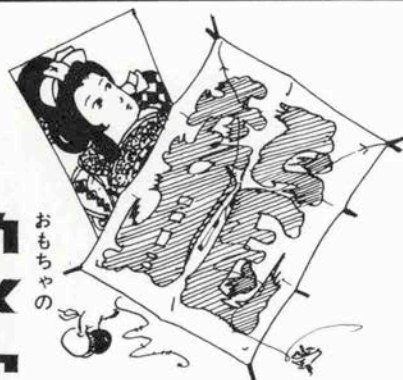
やっぱりうまい  
むさしのとんかつ

ムサシ

コベ三宮  
ムサシ

でんわ・331-3771  
321-3210  
331-6334  
331-6335

賀正



おもちゃの  
カメヤ



三宮方面でのお買物は…  
さんちか店 ファミリータウン 391-4045  
三宮店 市街地改造のため仮店舗にて営業中  
元町方面でのお買物は…  
元町店 元町通3丁目山側 331-0090  
パンプウ店 元町通1丁目不二家前 391-0768  
神戸駅前方面でのお買物は…  
サンこうべ店 神戸駅前地下街 351-6002

□連載小説

# まだ遅くない

葉月 一郎

え・小西保文 (題字も)

## 〈16〉逆流

一陣の風のように、吹き荒れるだけ暴れると、有野は肩をゆするようになって去ってゆく。

「わざわざ忠告に来たんやからな。それ相応のご返事を期待してまっせ」

それが、捨てぜりふだった。

「支局長」

巨体を眼で見送ると、ソファに近寄る。表情の裏側を読みとろうと、みつめる。

しかし、石津支局長は、細い眼をいつそう細くしたただけだった。タバコの煙が、さらにヴェールをかけた。

「吉良画伯の絵、見たか」

まるで、有野の来訪などなかったような遠い眼が、そこにあった。

「あの絵だけでも、紙面に出したいなあ」

涸れた声が、戸波に届く。

「絵だけ？ それ、どういう意味です」



〈あらすじ〉昭和四十五年秋。神戸に君臨する大企業、兵庫製鉄(兵鉄)の公害をなくしようと、毎朝新聞神戸支局がキャンペーンを企画、取材をすすめていた。

石津支局長のすすめで戸波記者は怠惰な日常をふり捨てて参加、仕事への情熱を日ごとにわけてゆく。たまたま夜の盛り場で知り合った兵鉄秘書課の細川亜紀子と次第に心をひかれあう。亜紀子は会社首脳の新聞社対策などを戸波に知らせて協力し、ある夜、誘われるまま六甲山のホテルへ同行する。そこで亜紀子は、新聞記者だった兄が、誤報記事を書かされて自殺したことを告げる。二人は結ばれぬまま一夜を明かす。一方、兵鉄の和久井社長らは、石津支局長らとの会見でも高姿勢の答弁を繰り返す。花房総務部長を中心に新聞社工作もすすめる、広告の掲載とりやめなどの圧力をかける。キャンペーンの原稿が出そろったころ、兵鉄に近い市会議員の有野も支局へ乗りこみ、取材をやめるように申入れる。

聞き捨てならぬことばではないか。そんな想いで問い返す。

「う？ うむ」

薄く、かげりのある微笑が浮かんだ。

「ひょっとすると、君らの原稿より、あの絵の方が迫力があるぞ。そういいたかったんや」

「いや、しかし……」

泉田次長が寄ってきた。

「えらく元気のいいセンセイだったなあ」

泉田は、有野の名刺をつまみあげていった。

「あれも、兵庫製鉄さしまわしですか」

「いや、そこまでかんぐるのは兵庫製鉄に失礼やろ」

支局長は、タバコをひねりつぶすと、投げやりな口調にかえっていた。

「自発的に、善意で、押しかけて来たと見るべきやな。」

インスタントコーヒーぐらい出して上げればよかったかな」

話題が有野の方へ戻ってゆくのを、戸波はいらだたく聞いていた。

なにか、ある。

たしかに、なにかが支局長の胸にのしかかって来ているに違いない。「絵だけでも」というひと言は、その状況をはしくも表現しているのではなからうか。

巨大な、しかも眼にみえぬ風圧に、支局長は一人で耐えている。押し返そうと苦闘している。そんな気がしてならない。

「新聞が売れんようになるゾ、とセンセイがいつてましたな」

泉田は肩をすくめていった。

「お、そうや、地元の販売店に聞いてみてくれたか」

「ええ、それとなく打診したんですがね、記事のことで文句が来たら支局へ行ってくれということにします。まあ、遠慮なく何でも書いて下さい、といっていましたよ」

「うん、それでいい。それでいいんや」

「しかし、連載が始まったら、部数が減るんじゃないでしょう」

「さあ、どうかな。いったん減って、それから次第にふえる。そういうものをつくらにゃいかなあ」

支局長と次長。トップ二人の会話が、さりげなく続いている。

態勢をつくり、陣地構築を終え、なお領土内での布石

を固める。それは参謀本部の作戦会議にも似ていた。

だが、戸波の心の底に芽生えている、この形容しがたい不安は、どう解きほぐしたらいいのだろうか。

「支局長、本社は、大丈夫ですか」

口に出してみる。

「本社は、どうした」

「つまり、その、圧力がかつて……」

「あんな、本社はな、いま送ってる原稿、すぐに小ゲラにして、箱組みしておくといつてたよ」

連載開始の前日まで待たずに、すぐ活字にして一応組んでみる。——それは、本社側の反応のよさ、つまり意欲を示していることになる。

「そうですか。そりや、よかった」

「つまりらんに神経使うから、若いくせに頭髮、薄くなるんや」

あ、痛い、と頭を抱えてみせた戸波の姿に支局長は声を上げて笑った。だが、その高い笑いの響きに、どこことなく空洞がある……。

戸波の視線は、その空洞をつかみとろうと、支局長の全身に注がれていた。

兵庫製鉄本社の社員食堂は、いかにもこの会社らしい素朴で頑丈な構えである。

高い天井、太くむき出しのコンクリートの柱、飾りけのない無愛想な壁。

北寄りの窓側は、数枚の衝立て仕切られていて、幹部級が食事をしながら簡単な会議や商談めいたものをしやすいように造られている。それは、中華料理店の大広間によくあるコンパートメントに似ていた。

専務の来客のために遅れた昼食を、うとんで済ませて、秘書課へ戻ろうとしていた細川亜紀子は、その衝立の奥から急に呼びとめられた。

「細川君、ちょっと」

度の強い眼鏡をみなくても、それが花房総務部長であることは声でわかった。向い側には広報課長が控えている。

「まあ、掛け給え」

花房は、ふとい首のまわりを、くしゃくしゃのハンカチで拭いながら、あごで椅子を示した。

平素は、むしろ仕えやすい上司である。切れものらしい訝は、ちょっとした指図にも現れているが、人間的な深みもあって、つめたい上下関係を感じさせない面がある。

が、きょうは違った。どことなく、この衝立に囲まれた一角の空気全体が、ひやかかなのである。

「君ね、来週から、灘浜工場へかわってもらうことにしようよ」

「は？」

「うむ、工場長付だ。姫野よし子君だったかな、あちらの工場長付の女の子が結婚するので辞めることになってね、空席ができるんだよ」

「……」

灘浜工場は、新しいが規模は大きくない。本社から四キロと離れていないけれど、本社秘書課からの転出というのは、全く異例だ。左遷的ニュアンスが濃厚である。

亜紀子は、急に背筋につめたいものが走るのを覚えた。(なぜ、なぜ急に私が……)

毎朝新聞の記者である戸波と一夜をとにした。体のまじわりこそなかったが、お互いの心は急速に、大きく接近した。

そのことと、この異動は、なにか脈絡があるのだろうか。

ゆうべのきょうである。胸騒ぎを押さえきれない……

しかし、無頓着に、委細かまわずといった調子で、花房はことばを続けた。

「姫野君の後釜では役不足だろうし、しかも本社から転

出というのは不満だろうけど、あそこはあそこなりに大事なポストだ。よろしくたのむよ」

「あのう、私、なにか……」

落度でもあったのか、と聞こうとして、亜紀子は口をつぐんだ。眼鏡越しの花房の視線に、いままで体験したことのない酷薄さが感じられたからだ。

(ヤブ蛇になつては、いけないわ)

戸波の熱っぽい表情が、脳裏にクローズアップされてくる。

「どうかしたんかね」

「いえ、別に……」

「うむ、そうだ。通勤定期の買い替えが必要なら、庶務で手続きしてもらえばいいよ」

それだけいうと、もう用事はすんだという顔付きになった。そのまま花房の視線が向かいの広報課長に移る。

二人の男の間に、目にみえぬ目配せが交されたのを亜紀子は感じる。

「では、失礼します」

男たちは、返事もしない。その沈黙が、なによりも冷酷さを雄弁に物語っている。

椅子を立つ。衝立の外へ出かかる。

「細川君」

タイミングをはかっていたように、広報課長が呼びとめた。

「は、なにか」

「うむ。いや、君、ゆうべ、家へ帰らなかったね」

あつと、心の中で叫ぶ。

「ちょっと用事があってね、実は、君の家へ夜おそく、電話したんだよ。そうしたら、お母さんがまだ帰ってないっていわれたんで、連絡たのんでおいたんだけど……」

女性的な甲高い声で、課長は一気に説明した。

「だれにも連絡しませんでした」——そういつて昨夜、亜紀

子は戸波のあとに従った。それは、あらゆる世間の絆を断ちきって、夜をとにするという決意の表現にほかな

らなかった。

そのことに悔いはない。迎え送った夜の中身についても満足しているといえる。

だが「帰らなかったね」と、とがった声で指摘された。とたん、亜紀子の背に再び悪感が走った。

それは、突然、この二人の男の前で素裸にされたような、思わず身をかがめたくなるほどの羞恥もまじっている。

押し殺そうとすればするほど、その感情が顔に出た。笑い声が飛び出した。花房総務部長だった。ドスのきいた、腹の底だけで笑っているような声だった。

「いいんだ。いいんだ。若いうちが花だ。人生、いろん

なことがあるよ」

それだけいうと「もういい、あちらへ行け」と、花房は掌で払いのけるような仕草をした。

夢中で、衝立から出る。

廊下を、小走りに急ぐ。

体中が熱く火照って、自分がいま、どこを歩いているのか、それさえわからない。

「人生、いろんなことがあるよ」——花房の声が、どこまでも追いかけてくる。まるでエコーがかかったように、ウワンウワンと反響が大きくなって……。

受話器を通した亜紀子の声は、心なしか震えを帯びていた。

共働きの妻が、昼間、会社でいじめられた話を夫に聞かせるような口調もまじった。

「ゆうべのことと、私の人事異動と、関係があるのでしようね」

戸波は、答えられない。

「あるに決まってるよ」と胸の奥で叫ぶものがある。

だが、口に出すわけにはいかぬ。出せば亜紀子のおびえに拍車をかけるだけではないか。

「自分、おとなしく、様子をみようやないか」

ようやくそれだけ告げた。

「会社の出方や彼らの意図



を、じっと見てみるしかないなあ」

「私たち、しばらく、会わない方がいいみたい」

「私たち」に万感をこめた口調で、亜紀子がつぶやいてる。

「うむ、そうやなあ」

歯切れの悪い応答を繰り返しながら、戸波は次第にいらだててきた。

がっかりと粘つく、蜘蛛の巣のように張りめぐらされた相手のワナに、まんまと引っかかったような気がする。

十重二十重の網の中で、孤立して喘いでいる亜紀子に、手をさしのべてやれないもどかしさも強い。

（なにくわぬ表情で、がんばりつつけるんだよ）

心の中で、くり返す。

おそらく、ポートターミナルか六甲山で、二人が語らっているところを誰かに見られているかもしれない。

取材源としての亜紀子を失うことよりも、亜紀子の不安をいまずぐ除いてやれぬいらだたしさが戸波自身を責めたてる。

「これからは何かあれば君の家へ電話しよう。家族の人にも、僕のこと、多少は説明しといてくれた方がいいかもしれないね」

返事はなかった。

事態の急変の中で、戸惑ったまま対応しかねている、そんな亜紀子の心情が、受話器を通して伝わってきた。

「じゃ、また」

聞きとれぬくらいに低い声とともに、電話の切れる音が鼓膜を刺した。

「戸波さん、こっちも電話ですよ」

給仕の少年の声に、われに返る。

警察担当の松岡記者からだった。

「松ちゃん、どうしたんや」

「どうも妙な話なんですが、戸波さん、あなた堂本俊夫って人、知っていますか」

「堂本？ あ、知ってるよ。どうかしたの、堂本さんが」

知っているところではない。

五年前の争議事件のからだ裁判で、堂本が無罪の判決をうけた。それを記事にしたばかりに、いまの職場で彼の前歴が明るみに出たのである。そのため、彼は解雇された。

「その堂本がですね、夕方、湊川公園の横でトラックにはねられましたね、いま危篤状態なんです」

「なに、ほんまか」

病院からかけているのであろうか、電話の向こう側で多勢のさわめきや、なにやら甲高い声がしている。

「ええ、それでですね、病院へ来たら、堂本の家族が、毎朝新聞にはモノをいわんって、えらい権幕なんです」

言葉がノドの奥でからんだまま出てこない。

あの判決記事を書いたことに対して支局へ抗議に来たとき堂本は「親子心中でもせえ、というのか」と声を荒らげた。

あとで支局長が再就職のあっせんをしかけたときも、彼は、「毎朝新聞の世話にならん」と、つめたく断りに来た。

不慮の輪禍にあったいま、家族の心情はあのとときの堂本自身のそれと何ら変らないのではあるまいか。

「家族を、なだめ、すかして聞こうとしたらですね、戸波って記者を出せ、あいつになら、いうことはいっぱいあるって……」

「わかった。よし、おれが行く。すぐ行くよ。どこや、病院は……」

火事を知らせる半鐘が、大脳の奥で鳴っている。真赤な炎に似た血が、五体をかけめぐり逆流してゆく。

支局の急な階段を、戸波は三段ずつ駆けおりていった。

に……音楽を趣味として……音楽の本質、なをう得たご意見、と思います。なんでもやろうと思つたことがやれるものだと思います。海船港、エキゾチックです。地中海の水の碧さを想像しています。

★11月号楽しく読ませていただきます。エッセイ特集の東京で活躍中の神戸っ子たち、とても神戸を愛している気持ちがよくわかります。神戸を離れると、特に神戸の良さがわかります。神戸の素敵な面が東京にあると、どうしても足が向いてしまいます。東京の街の中にあっても神戸のお店はやっぱり神戸の香りがします。東京には多くの神戸っ子がおります。神戸にいる神戸っ子たち御安心。

(東京都渋谷区 田中 正治)

★私もやつと一年間の任期が終り、今、振り返つてみればとても短い一年間でしたが、たくさんの方々と知り合へ、たくさん想い出を作ることができたことな、とても幸せに思っています。まづは任期終了通知です。

(尼崎市長 茂川 秀子)

小小小楠貝鴨柏嘉嘉金小小崗牛梗石石乾砂青朝安  
泉林磯本原居井納納井野根崎尾並野野野木奈部  
德芳良憲六健毅正元一真吉正成信豐重正  
一夫平吉一玲一六治彥夫造忠朗一明一彥仁雄隆夫

津高陳田玉田田滝滝角砂塩新白雀阪坂古後上小  
高橋 辺井中宮川川中南田路谷川部本井林藤林林  
和 舜聖 健虎勝清 猛重義秀 昌之 時喜末英秀  
一孟臣子操郎彦二一郁夫民孝雄渥 之介勝忠榮二一雄

神行元百村光宮宮松福深畑野南難中中西西直外竹  
戸吉永崎上田地崎井富水 沢部波西卷脇村木島馬  
青年哉定辰正二顯襄辰高芳惣専幸圭 太健準  
會議女正雄郎司二雄男美吉郎郎三還勝弘親功郎吉助



「あけましておめでとうございませう。本年も相  
 変りませう。『神戸っ子』を引立てて  
 一九七五年を迎えました。新年、  
 ください。」

三本新内閣でスタートする新年。  
 栄格盛衰を感じる世の動きの中で、  
 『神戸っ子』も鶴子のタウン誌として  
 の役割を充分再確認し、新しい  
 半世紀にたちむかいたいと思いま  
 す。

飛んで、はねて、ずっこけで……

さあ、兎年はどんなかなかな？

最近「西域」に擬えるようになった  
 遊牧民族の興亡の歴史や探検家の人々  
 生は夢とロマンにシチュエーションの  
 つか自分の足で歩いてみるのが私の

小泉美喜子  
 編集者一同

神戸っ子ごあんない



★月刊神戸っ子を毎月お読みに  
なりたい皆さま、また神戸を離れて  
いるお友達に、神戸の香りをとおどけ  
になりたい方は、編集室あてにお申込  
み下さい。さっそくお送りします。

★月刊神戸っ子をお買求めの時には  
左の本屋さんへどうぞ。

神	ラ	文	南	北	小	甲
戸	ン	洋	天	山	原	南
図	書	堂	荘	本	光	堂
書	房		書店	宝盛館	文堂	
						国鉄本山駅北口 東横田吉沢北口 東急池御影中町 阪急六甲駅2階 新聞会館1階 荻合区布引町4 生田区古渡通1

★初めのうだが………  
★軽妙なところが………

にすると人に年輪の重さがあると含蓄がある  
ある言葉な。阪本、朝比奈素芭の背  
の対談の経緯、奥谷今吾の言葉の背後  
後に厳しい沈黙が在る。その沈黙を引  
引ききく。建つビルはいよいよ大きなもの  
★新しく建つビルはいよいよ大きなもの  
のばかり。その分地上から見る空が小さ  
小さくなってく。雲はひとへくぐん  
だく。

★あけましておめでとろございませ  
井上 久代

す。あけがた一九七五年、昭和五十  
年。不景氣が身じりしますが、そ  
れでも新年を迎えると気もちがひき  
さまをながめるとやっぱりウサギ。お月  
さまをながめるとやっぱりウサギ。お  
モチをついているようにみえまし  
た。

★昨日の今日、一日ちがうだけで年  
が明けたと人はギャング団の合言葉  
のようにオメデトウという。そんな  
ことよりアガロウだ。今月もちよ  
っと苦しいな。ハハハ。

△中村 雅子△

△川崎 啓一△

コーペブ

[illegible]

## 神戸っ子NO・165

★発行／50年1月1日  
★編集・発行／小泉康夫  
★発行所・神戸っ子編集室  
神戸市生田区東町113の1  
大神ビル8階  
電話 (331) 2246 (代)  
振替口座 神戸四五一九六  
頒価200円

# 神戸のうまいもんとドリンクング

## ★日本料理

- そば 吾作  
神戸市生田区中山手通2丁目3-17  
TEL 242-2858
- 讃岐名代うどん あこや亭  
神戸市東灘区旗塚通7-5 TEL 231-6300  
トアロード店 TEL 391-2538  
兵庫駅前店 TEL 575-5306
- 和食 くれな い  
三宮生田新道浜側中央  
KCBビル2F TEL 331-0494
- かつばう 花くま  
神戸市生田区花隈町45  
TEL 341-0240
- 鍋もの・おむすび 悟味西  
お茶漬・がはた  
神戸市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848  
三宮さんちがタウン TEL 391-5319
- お茶漬・おむすび ふる里  
神戸市生田区北長狭通2の1  
TEL 331-5535
- たこ焼 たちばな  
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572
- 北海道郷土料理 蝦夷  
神戸市生田区中山手通1丁目115  
生田区東門筋東門会館ビル1階  
TEL 331-7770
- カニ料理 婆娑羅(ばさら)  
神戸市生田区北長狭通1丁目18  
三宮阪急西口北側レインボーラザ1・2F  
TEL 321-6363

## ★西洋料理

- レストラン アポロン  
ティー・バーラー  
神戸市東灘区八幡通5丁目6  
TEL 251-3231
- レストラン 鹿皮<あらかわ>  
神戸市生田区中山手2-9  
TEL 221-8547・231-3315
- GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門  
神戸市生田区中山手通2丁目98・99  
TEL 331-5817
- ステーキハウス れんが亭  
神戸市生田区下山手通2丁目34  
TEL 331-7168
- レストラン セントジョージ  
神戸市生田区北野町1丁目130  
TEL 242-1234

- レストラン 男爵  
神戸市生田区中山手1-18  
山手第一ビル1F TEL 241-0778
- maison de la mode 花屋敷  
三宮フラワーロード市役所前  
TEL 251-2109
- 鉄板グリル きゃんどうる  
神戸市生田区北長狭通2-22  
TEL 331-1183
- レストラン キングスアームス  
神戸市東灘区磯辺通4-61  
TEL 221-3774
- 居酒屋 風れすたらん 井戸のある家  
生田新道新世紀南  
TEL 331-5664
- レストラン ムーンライト  
三宮・生田新道  
TEL 331-9554
- 串かつ店 和蘭陀屋  
三宮相互タクシー北入  
TEL 331-0230
- グリル・鉄板焼 月  
神戸市生田区北長狭通1-24  
生田神社前 TEL 331-2509
- BARBECUE & STEAK 六段  
生田区元町通3丁目  
TEL 331-2108
- Regent House S O F I A (蘇珮亜)  
神戸市生田区中山手通6丁目84  
TEL 341-0658
- レストラン ハイウェイ  
神戸市生田区下山手2-20  
TEL 331-7622
- ピッツアハウス ピノッキオ  
神戸市生田区中山手2-101  
TEL 331-3545
- レストラン フック東店  
神戸市生田区栄町1-5-3  
TEL 321-3207
- ビザ&スパゲティ ガルの店  
東灘区琴緒町5丁目1-7  
西山ビル1F TEL 241-9025
- レストラン ミリオナークラブ  
生田区山本通2丁目50の2  
レストラン 231-9393-5  
メンバーズ 221-1162

- フューク ウェスタン ローストシティ  
神戸市生田区三宮町3丁目22  
TEL 331-3770
- RESTAURANT & BAR ゴックスタッド  
生田区山本通3丁目18 回教寺院前  
TEL 242-0131
- メキシコ小料理 ティファアーナ  
神戸市生田区中山手通1丁目4ノ12 パールコーポラスビル1F  
TEL 242-0043
- ドイツ風音楽レストラン コーベ・ローレライ  
生田区北長狭通6丁目39  
TEL 371-0086
- ★喫茶 宮水の  
にむら珈琲店  
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70  
TEL 221-1872・231-9524  
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35  
TEL 391-0669  
北野店・山本通2丁目9 TEL 242-2467  
(会員制) 3F事務所 TEL 242-1880
- 喫茶・レストラン バロン  
神戸三宮サンプラザ地下 TEL 391-1758  
トアロード店 TEL 391-1210
- 喫茶 ガーディニア  
神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F  
TEL 321-5114
- 珈琲 モーツアルト  
神戸市生田区山本通2丁目98 グランドマンション1F  
TEL 241-3961

## ★club

- くらぶ 阿似子  
神戸市生田区中山手2丁目89  
TEL 331-6069
- c l u b 飛鳥  
神戸市生田区中山手1丁目117  
TEL 331-7627
- c l u b 小万  
神戸市生田区東門筋中島ビル3F  
TEL 391-0638・4386
- c l u b さち  
神戸市生田区中山手通2丁目75  
TEL 331-7120

- クラブ 千  
神戸市生田区下山手通り2丁目21  
TEL 391-1077
- c l u b なぎさ  
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626
- c l u b 落<ふき>  
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515
- くらぶ ーげん  
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F  
TEL 331-8593
- c l u b Moon Light  
BAR TEL 331-0886・391-2696  
Club TEL 331-0157
- クラブ るふらん  
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854
- ★STAND & SNACK ベルビュ・ドール  
神戸市生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F  
TEL 321-5677
- スタンド 英国屋  
生田区下山手通2-6 相互タクシー横  
TEL 331-1100・331-6600
- 洋酒ハウス 雑貨屋  
生田区下山手通2丁目8の6  
(生田新道相互タクシー横上) TEL 321-0260
- スタンド グラムール  
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637
- SNACK MATSUMOTO  
神戸市生田区中山手通1丁目32-3  
曾根ビル1F TEL 241-5470
- カクテルラウンジ サヴォイ  
高梁山側 テキの店北  
TEL 331-2615
- スタンド 晴海(Sei-kai)  
生田区北長狭通2-141  
TEL 321-2250
- DRINKING IS AN ART OF LIFE ウッドハウス  
神戸市生田区下山手通1丁目32  
PHONE 078-241-7320
- スナック ビジービー  
神戸市生田区中山手2丁目  
TEL 391-4582
- 居酒屋 ボルドー  
生田新道浜側中央KCBビルB1F  
TEL 331-3575
- Wine and something 珍地理屋  
神戸市生田区中山手通1丁目24-7  
大和ナイトプラザ1F TEL 242-0288

- サロン 神戸時代  
生田区中山手通1丁目28  
シャトウコトブキビル TEL 242-3567
- スタジード 実  
生田区中山手通1の72  
TEL 331-6985
- 洋酒の店 キャンティ  
神戸市生田区北長狭通2丁目3  
TEL 391-3060・391-3010
- スープとパン店 キャンティ北店  
神戸市生田区下山手通3丁目8-9 TEL 331-3661
- DRINK SNACK スネカジリッ子  
神戸市生田区下山手通2丁目  
永晃ビルB1 TEL 391-8708
- Stand&Snack サントノーレ  
ティー&ドリンク 生田区下山手通2丁目トア・ロード  
TEL 391-3822
- Salon de roulette サントノーレ  
パンドラ ルーレット教室 神戸市生田区中山手通1丁目24-7  
ダイワナイトプラザ6F TEL 241-1710・221-3886
- 蕎麦洞 でっさん  
神戸市生田区北長狭通1丁目258  
TEL 331-6778
- STAND マッシュケナダ  
生田区下山手通2丁目ちやいなタウン地下  
TEL 331-5587
- スナック GASTRO  
神戸市生田区中山手通3-20  
トア・マンション TEL 231-0723
- スタンド クラブ・ガーデニア  
神戸市生田区中山手通1丁目115  
東門筋中島ビル2F TEL 391-3329
- ティー&パブハウス バスチャリントン  
生田区北長狭通2丁目(トア・ロード)  
TEL 332-1125
- スナック 比奈古多  
とらふ料理 神戸市生田区北野町1丁目143  
Tel 241-1306
- サロン アルバトロス  
生田区中山手通り1丁目24の7  
大和ナイトプラザ2F-B TEL (231)3300
- スナック エルソタノ  
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620
- スナック 山莊  
神戸市生田区北長狭通1丁目22  
TEL 391-5823
- スタンド 紋  
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1 レンガ筋  
TEL 331-8858

★KOBÉ PLAY GUIDE MAP★

神戸のうまいもん＆ドリンキング

